

事務事業の概要							
1	事務事業名	広域連携事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	3	国際・地域間交流の推進			
		今後の取組	3	宮崎市との訪問団相互派遣による姉妹都市交流の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	姉妹都市観光交流費					
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	宮崎市、竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会、ビジターズビューローなど各関連団体					
9	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中南和地域における広域的な連携を密にし、市内及び周辺地域の魅力的な観光資源を発信していく。</li> <li>・姉妹都市間（交流都市間）の訪問（観光）団や踊り隊の相互派遣の推進により、姉妹都市宮崎市との友好の絆を深める。</li> <li>・市民間の交流に力点を置き、その結果互いにふるさと意識の醸成を図ることを目的とする。</li> </ul>					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本遺産竹内街道関連10市町村や、飛鳥地域3市町村など広域連携を積極的に進めていく。</li> <li>・周年事業等での市民訪問団の派遣は他の自治体でも見受けられるが、毎年、数十人単位の訪問団を相互に交流している事例は類例がなく、また交流という点で充分といえないことから、今後は、根本的に在り方を見直す必要がある。</li> </ul>					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に姉妹都市宮崎市で行われる「宮崎神宮御神幸祭」に合わせ市民公募による訪問観光団を結成し、宮崎市をはじめとする九州各地を訪問し、宮崎市では公式歓迎会で交流を深める。</li> <li>・「春の神武祭」、「橿原夢の森フェスティバル」開催時に宮崎市から来訪する訪問団、宮崎市物産関係者に対する公式歓迎会を開催し、交流を深める。</li> <li>・7月に宮崎市で行われる「まつりえれこっちゃんみやざき」に踊り隊、橿原市観光親善大使「さらら姫」を派遣する。</li> </ul>					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	訪問観光団の応募者数	40	40	40	40	
	活動指標	①					
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		6,135	5,951	5,951	5,951	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		6,135	5,951	5,951	5,951		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	国際交流事業					
2	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	山本 久敬	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	3	国際・地域間交流の推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	国際交流推進事業費					
7	事業開始年度	平成 14 年度	事業終了年度	平成 一 年度			
事務事業の実施							
8	対象	市民、公立幼・小・中学校及び在住外国人					
9	事業の目的	市民の異文化理解や、国際化意識を高めるとともに、様々な分野で交流を行い相互理解、国際協力の意識を高める。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		国際交流については、公共性の観点から関わるべき範囲を慎重に検討しながら、補完しあえる交流相手の選別が不可欠となる。友好都市交流と並行して交流の機会を増やし、異文化理解・多文化共生の意識の醸成に努める。なお、在住外国人はわずかながら増加傾向にあり、通訳派遣など、今後様々なニーズが生まれてくると考えられ、国際交流のみならず、市民生活という視点での事業を展開させていく必要がある。					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国公州市への文化教育交流のための中高生派遣</li> <li>・諸外国自治体からの視察受入</li> <li>・東アジア地方政府会合への参加</li> <li>・各幼、小、中学校への外国人講師による国際授業、懇談等の通訳派遣</li> <li>・在住外国人のための広報等の翻訳や生活相談</li> <li>・多文化共生「世界の文化体験イベント」等の開催</li> </ul>					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	訪問団及びイベントの参加者数(人)	32	40	40	40	
	活動指標	① 訪問団の派遣及び受入回数(回)	4	4	4	4	
		② 講師・通訳者派遣回数(回)	38	38	38	38	
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		7,099	7,132	9,743	7,132	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他			1,000		
	(a) - (b) = 一般財源		7,099	7,132	8,743	7,132	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	友好都市交流事業					
2	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	山本 久敬	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	3	国際・地域間交流の推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	姉妹・友好都市交流費					
7	事業開始年度	平成 18 年度	事業終了年度	平成 一 年度			
事務事業の実施							
8	対象	市民・職員					
9	事業の目的	市民の国際意識を高めるとともに、行政間の様々な分野で交流を行い、相互理解、国際協力の意識を高める。友好都市である洛陽市との交流を通して相互理解を深め、友好促進を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		社会情勢を踏まえながら市民訪問団や青少年訪問団の派遣等の交流の機会を設け、市民に対して国際交流事業への参加を促すとともに、相互理解を深めていく。					
11	事業の内容(手法)	・洛陽市各種視察団等受入れ(年2回程度) 洛陽市各種関係者による訪問団等を受入れ、今井町や博物館等、視察や意見交換などを行う。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	訪日団受入れ	2	2	2	2	
	活動指標	① 訪中国派遣	0	0	0	0	
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		1,070	1,576	1,576	1,576	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		1,070	1,576	1,576	1,576		
14	増額理由	継続事業					
備 考							